

**ダイキン工業株式会社 2018年3月期第2四半期決算
アナリスト・投資家様向け説明会 質疑応答
(2017年11月8日、東京)**

Q 原材料価格の高騰影響について。今期および来期の見通しは。

A 今期は、期初、年間で対前年▲180億円（うち空調：▲170億円、化学：▲10億円）の影響を見ていたが、想定以上に銅・アルミ・鉄鋼などの価格が高騰し、上期の実績は対前年▲130億円（うち空調：▲100億円、化学：▲30億円）となった。今後も価格高騰は続くと思われるので、年間計画を対前年▲300億円（うち空調：▲235億円、化学：▲65億円）に修正した。来期については、18ヶ月予算の観点で予算編成の検討を始めている。現時点で具体的な数字はないが、ヘッジもなくなりマイナス影響を受ける。コストダウンや販売拡大などの努力によりできる限りカバーすることを前提に、新製品の投入に合わせた売価アップなども検討している。

Q 化学事業の好調の背景は。半導体・自動車分野での売上高はどの程度を占めているのか。

A 半導体・自動車分野の活況な需要を取り込み、樹脂・ゴムの販売を大きく伸ばした。化学事業の売上のうち、半導体分野が約16%、自動車分野が約18%を占めており、これらの市場は好調が続くと見ている。

Q 化学事業の原材料価格高騰の影響について。今後、蛍石の調達が困難になることはないのか。

A 中国が中長期的に環境規制を強化しているため、蛍石の価格高騰はしばらく続くと見ている。冷媒ガスについては、取引先にも原材料価格の状況をご理解いただけるよう努める。現状、蛍石は主に中国から調達しているが、メキシコなどの調達先も用意しており、備えはしている。

Q アジア各国の状況について。

A 第2四半期に入って天候が急に良くなったというわけではないが、第1四半期の遅れを挽回すべく、販売網の強化などに取り組んでいる。ベトナムの流通在庫も適正な水準に戻ってきている。オーストラリアは経済状況がよく、天候にも恵まれ、販売を大きく伸ばした。インドも引き続き好調。国ごとに濃淡はあるが、アジアは引き続き拡大市場であるという見方に変わりはない。

Q 中国市場の状況について。

A 個人消費は引き続き堅調で、住宅用マルチエアコン市場は拡大している。競合他社も住宅用マルチの市場に注目し商品を投入してきているが、当社は、独自の販売網や商品ラインアップの強さをいかして、引き続き伸ばしていく。

Q 米国でのハリケーンの影響について。

A ヒューストンにある工場自体に損害はなかったが、従業員の安全確保のために工場の操業を3日間ほど停止した。また、物流への影響から出荷が滞ったが、10月以降、グッドマン社の販売は堅調に進んでいる。

以 上